

みやまなかざといせき	
宮山中里遺跡	
所在地	高座郡寒川町 宮山・倉見
時代	弥生時代 古墳時代 古代 (奈良・平安) 中世 近世



調査概要

一般国道468号（さがみ縦貫道路）建設事業に先立ち、平成16年度から発掘調査を実施しています。調査対象範囲は寒川町宮山地区から倉見地区にかけてJR相模線沿線に所在していて、点々と地区を変えながら現在（平成18年度）も発掘調査を継続しています。宮山中里遺跡は平成12年から14年に第1次調査が行われていて、今回の調査は第2次調査にあたります。

これまでに発見された主な遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡（たてあなじゅうきょあと）、古墳時代後期の古墳周溝（こふんしゅうこう）、奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもものあと）、井戸跡（いどあと）、溝状遺構（みぞじょういこう）、中世の井戸跡、近世の区画溝（くかくみぞ）などがありま



▲1区 全景



▲2区 畝状遺構

す。宮山中里遺跡では第1次調査で前方後円墳（ぜんぼうこうえんふん）を含む古墳時代後期の古墳群が発見されていますが、今回の調査では古墳群が北側へ広く分布していることが明らかとなってきています。



▲2区 遺物集中